

清掃の品質（クオリティー）を落とさずに作業時間を短縮する！

誰でもできる！超簡単・作業時間短縮法

【作業時間短縮は相互利益に直結】

価格が同一であれば、作業時間が短い方が利益をより多く生み出す。単純に清掃の作業時間を短縮できれば、ほとんど苦労することなく利益を上乗せできるのである。

こんなことは、わざわざ私に言われるまでもない。作業効率を短縮し利益幅を増やすことは、人間が呼吸をするのと同様、商売においても必要不可欠の企業努力なのである。

しかし、清掃業界のスタンダードは違う。

少なくとも、私が接してきた清掃業界は、この当たり前というべき『企業の呼吸』を行っていなかった。

それはどういうことか？

結論から言うと、私が見た清掃業界とは『作業時間短縮』と『手抜き』を同一視しており、作業時間を短縮する事は『悪』である。という発想が根付いているように見えて仕方がない。その証拠に、『時間をかけて丁寧に作業します！』という顧客の願いをまったく無視した売り文句が、チラシやホームページ上に堂々と列挙されている事からもお分かりいただけるのではないだろうか。

調べれば分かる事だが、お客さんは、決して『長くかかる作業』に対して価値を見出していない。そればかりか、お客さんは『心から作業が早く終わる事を望んでいる』のである。

長い作業時間に価値を見出しているのは売り手だけ。つまり清掃業者（売り手側）のエゴでしかないのだ。

嘘だと思ふなら、ぜひ一度、既存客にむけてアンケートを行って欲しい。間違いなく『作業を早く終わらせて欲しい』と多くの顧客が願っていることをお分かり頂けると思う。

ここで勘違いしないで欲しいのだが、決して丁寧に作業することを否定しているのではない。私が言いたいのは、『丁寧に時間をかけて作業する』よりも『丁寧に短時間で仕上げる』ということが、もっとも最高の価値があり、しかもお客が望んでいる事なのである。という事実。

時間がゆっくり流れていた時代ならば、のんびりゆっくりやることに価値を見出すこともできる。十分に利益のとれる『職人の一点物』的な商品であれば、ゆっくり作業する事で付加価値を生み出すこともできる。

しかし、残念ながら『お掃除』という薄利の商品特性を考えるならば、作業効率を上げ、極限までロスを抑える企業努力をしなければならぬ事は明白だと思う。そして、その努力をいとわない会社だけが生き残っている事実も厳然と存在する。

つまり、作業時間の短縮は行列掃除屋にとって必須であり、掃除屋とお客の両方に利益を生み出す企業努力を、自分の間違っただけの価値観を捨てられないばかりに実行できないというのは、厳しいようだが本末転倒であるといわざるをえない。

【品質を落とさず作業時間を短縮する簡単な方法とは？】

別に難しい事はない。

品質を落とさたくないのであれば、品質に関

清掃の品質（クオリティー）を落とさずに作業時間を短縮する！

誰でもできる！超簡単・作業時間短縮法

係のない部分を効率化すれば良いだけの話。

つまり、清掃作業と清掃作業の間のロスを短縮すると、誰でも簡単に品質を落とすことなく作業時間を短縮する事ができるのである。そして、私の会社で実践しているノウハウの中から、導入すれば簡単に時間短縮できる具体的な方法を2つここでお伝えする事にする。

1つ目は『作業中のコミュニケーションに無線を使用する』というもの。これは、どんなに小さな現場であっても使用することが肝心で、作業員が大きな声を出せば済むような手狭な現場であっても使用する習慣を持つことが効率化のポイントとなる。

これは、作業長をしたことがある人ならば分かる事なのだが、自分が行っている作業をすべて中止して、全体の状況を把握するために歩いて見て回るほどムダなものはない。多くの場合、作業長になる人間が、一番仕事の能率が良いはずである。その優秀な人材の手を止めることは、作業短縮において最もしてはいけない事なのである。

そして、そのムダを回避するものが『無線』なのである。

無線があれば、作業の手を止めることなく『ボタン一発』で状況掌握がその場でできる。もちろん、指示出しも作業を行いながらその場でOK。

反対に、スタッフの方からも指示を仰ぐ事ができるし、わざわざ現場内を作業長を探して回る必要もない。聞きたい事があったらその場で質問し、即対応できるのである。

もし、同じような状況で無線がなかったらどうだろう？

スタッフがトラブルにつながるような疑問を持つ。作業長に指示をもらうために現場内を探して回る。（探さないにしても作業を中断し作業長の元へ出向く必要がある）。見つからない場合は、探すのが面倒になり自分の判断で作業を行う。結果、トラブルになる。

結局、時間のロス・経費のロス・最悪な顧客の信用を失うロスが、一連の流れで発生してしまうのである。

そして、この事例は特殊な懸案ではない。あなたも見に覚えがあるのではないだろうか？これは掃除の現場で、日常的に起こっているできごとであり、その対策を誰も何ひとつ行っていないのである。

これを回避するためには、私の場合は無線を持たせることが一番早く、もっとも効果的であった。ぜひ、スタッフに無線を持たせてみる事をお薦めする。

2つ目は『雑巾絞りのロスをなくす』というものである。

「雑巾？冗談でしょう！？」と思われた方もいる事だろう。しかし、私はいたって真剣である。

これは、理論に基づく時間短縮ノウハウであり、何気なく会社経営を行っている、全く見えてこない時間短縮のノウハウでもある。

ここで、あなたに質問がある。

清掃の品質（クオリティー）を落とさずに作業時間を短縮する！

誰でもできる！超簡単・作業時間短縮法

あなたが清掃作業を行ううえで、1日に何度『雑巾』を絞るかご存知だろうか？

作業の種類や現場の大小で答えが変わってくるが、通常、新築の竣工清掃で50回以上。退去後清掃にいたっては、その2倍以上の『雑巾絞り』を行うのである。

もちろん、人によってはそれ以上の回数を重ねる人もいる。

そして、その『雑巾絞り』に費やす時間は、バケツのもとへ向かうところから、もとの作業位置へ戻るまでに平均1分以上。

一度中断した作業のスピードを取り戻すまでに、早い人で10秒、遅い人で30秒。

結果、一度の雑巾絞りの開始から終了までに、遅い人で1分30秒ほどかかるのである。

「それが何か？」と思った方は要注意。

感の鋭い方なら、数字を見ただけで時間短縮の方法がひらめいた事だと思おう。

つまり、1日に50回もの回数を重ねる『雑巾絞り』という作業。時間に換算して50回×1分～1分30秒 = 50分～75分(雑巾絞りだけに使われた作業時間)

そして、4人で作業を行っていたら200分～300分もの時間を使っていることになる。

意識せずに使っていた時間が、毎日の作業の中にこれだけ含まれているのである。

では仮に、この雑巾絞りの作業時間を、半分、つまり、50回を25回に減らす事ができれば、どのような結果を導くかお分かりになるだろうか？

そう、4名で作業を行うとすると、作業全体から1時間30分～2時間30分もの作業時間を一気に短縮できる計算になるのである。

もちろん、これは様々な要因を度外視した計算である事は充分承知している。しかし、このことから得られる重要な教訓は、『雑巾絞り』にも作業効率をあげる要因があるということであり、たかが雑巾絞りと言えども、アプローチを変えれば強力な武器にあるということである。

雑巾の絞り方、使い方ひとつで、その会社の作業速度が違うと言う事がお分かりいただけたでしょうか？

私の会社が、異常なほどに作業速度が速い秘密は、実はこの様ななんでもない事柄を、徹底的に科学し、検証し、教育するからにほかならないのである。

もし、あなたの会社が『長時間作業』をウリにしている会社であるならば、もう一度、よく考えて欲しい。

あなたが掃除を依頼するお客であるならば、【長時間丁寧作業の会社】と、【品質が異常なほどに高く、しかも劇的に作業時間が短い会社】のどちらを選ぶだろうか？

そして、それこそが真に顧客が望む究極のサービスなのである。